

# 「山の日」法案成立楽観できず

祝日「山の日」について、22日の総会で日付を8月11日に決めた超党派国会議員連盟は、次期通常国会で祝日法改正案の可決までこぎ着けたい考えだ。ただ、趣旨や内容が各党、各会派内に浸透しているとはいえず、消費税率引き上げなどの論戦が待ち受ける来年の国会で成立するかは見通せない。

「山の日」は素晴らしい祝日になるという自信がある。すぐに成立させたい」。総会後の取材に議連の衛藤征士郎会長（自民党）はそう強調。適用時期も「（成立したら）時間を置かずに来年から」と意気込む。

議連所属議員は衆参合わせて全議員の15%に当たる113人。今後、各党、各会派の了解や周知が進むかも、法案提出や早期成立の鍵を握る。

## 8月11日 議連決定

県内関係地域の首長らからは、県が来年から7月第4日曜日を「信州山の日」とするのを目指していることを踏まえ、祝日「山の日」との相乗効果に期待する声が聞かれた。

大町市の牛越徹市長は「高山にも登りやすい時期に落ち着きそうでは」としている。松本市の菅谷昭市長も「夏休みの時期で大変ありがたい」とし、共に8月11日の祝日化を歓迎。南中央西アルプスに囲まれた伊那市の白鳥孝市長も「両方の山の日を山岳観光を発信する機会としたい。山系ごとの自治体間連携も大事だ」と述べた。

## 各党への浸透 これから

全国的な山の日制定も求める阿部守一知事は「いろいろな人たちがしっかり議論し、国民理解が得られるように進めてほしい」と注文する。

一方、県山岳協会の宮本義彦会長は、6月第1日曜日や8月12日など紆余曲折を経たことに「どういふ議論で固まった日付なのか分かりにくい」。全国「山の日」制定協議会事務局長を務める日本山岳ガイド協会の磯野剛大理事長も「日付ありきの議論になっている印象がある。山の日に込めるメッセージや趣旨といった点で議論を充実していく必要がある」としている。

県内